

## 【グラントワ・カンタート 2018 “まなぶ” レクチャー】

[日時]2018年1月5日(金) 18:30~21:00

[会場]グラントワ小ホール

[来場者]338名(Ustream生配信視聴者含む)

[モデル合唱団]合唱団るふらん

[ピアノ]浅井道子

[演奏曲]「貝殻」作詩：新実南吉 作曲：寺嶋陸也

女声合唱曲『太陽のほとり』から「朝のパン」作詩：石垣りん 作曲：信長貴富

[パネリスト]寺嶋陸也、藤井宏樹、信長貴富、青山恵子

[進行]坂元勇仁、栗山文昭

今回のまなぶレクチャーでは、去年のコンクール課題曲「貝殻」(詩：新実南吉 曲：寺嶋陸也)と「朝のパン」(詩：石垣りん 曲：信長貴富)を題材に作曲者自身が指揮を振り、モデル合唱団るふらんの歌唱により解説・分析した。合唱指揮者である藤井宏樹氏は、作曲家による指揮とは全く異なる演奏をし、作曲家と指揮者での演奏の違いを聞き比べるというとても贅沢な内容であった。

また、同曲を声楽家の青山恵子氏が歌曲として披露し、日本語の発音・発声・言語表現について、来場者と一緒に歌いながらひとつひとつ丁寧に指導した。このレクチャーで使用された「朝のパン」は未出版譜であり、この点からも今回のレクチャーが大変貴重な機会だったと言える。

また、モデル合唱団「るふらん」の即応力の凄さも見どころであった。当日はリハーサルを行わず、それぞれの指揮者の指示は初めて出たものだったが、指揮者の指示通りに、同じ曲でも全く異なる表現披露し、参加者にとって大変分かりやすく“まなぶ”に相応しいレクチャーとなった。

質疑応答の場面で、来場者は合唱界を代表するパネリストに質問するのを最初は躊躇していたが、1人が質問をすると次々と質問の手が挙がり、作曲・編曲方法や歌い方、楽譜の読み方や指揮法など様々な話題に広がった。パネリストはそれぞれの立場から丁寧に、時には笑いを交えながら回答した。来場者がパネリストの解説に熱心に耳を傾け、メモを取り一生懸命に学ぼうとする姿が印象的なレクチャーだった。